

平成27年 第7回教育委員会会議録

1 日 時

平成27年6月19日(金)

開会 14時00分

閉会 14時50分

2 場 所

教育委員会室

3 出席した委員

金田清委員長、横山真紀委員、橋正徹委員、眞鍋知子委員、木下公司教育長

4 説明のため出席した職員

金戸清外志教育次長、竹中功教育次長、齊田正活教育次長、表純一教育次長兼教員指導力向上推進室長、平島敏彦教育次長兼教育振興推進室長、脇田明義庶務課長、宮崎栄治教職員課長、小浦寛学校指導課長、篠原恵美子生涯学習課長、浅田隆文化財課長、森山喜博スポーツ健康課長

5 議案件名及び採決の結果

- | | | |
|--------|------------------------------------|--------|
| 議案第22号 | 平成28～31年度使用中学校用教科書石川県教科用図書選定資料について | (原案可決) |
| 議案第23号 | 平成28年度用一般図書選定資料について | (原案可決) |
| 議案第24号 | 石川県立図書館協議会委員の委嘱(任命)について | (原案可決) |

6 報告案件

- 第1号 平成28年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について
- 第2号 平成27年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について

7 審議の概要

・開会宣告

金田委員長が開会を告げる。

・会議の公開・非公開の決定

議案第22号及び議案第23号は、教科書採択に関する案件のため、議案第24号は、人事に関する案件のため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第13条第6項に基づき非公開とすることを、全会一致で決定。

・質疑要旨

報告第1号 平成28年度石川県公立学校教員採用候補者選考試験等の志願状況について

(宮崎教職員課長説明)

資料5頁をご覧ください。

まず、「1 教諭等」の志願状況についてであります。

今年度、18年ぶりに募集を行いました理療科の志願者数を含め、志願者総数は、1,506人で、前年度より34人多くなりました。

全体の倍率は、採用見込数が10人減の320となっていることもありまして、前年度より0.2ポイント高い4.7倍となっております。

受験区分別の倍率は、小学校教諭等3.1倍、中・高等学校教諭等6.0倍、養護教諭9.2倍となっております。

次に、「2 栄養職員」につきましては、任用替え見込数4人程度に対し、志願者数が13人、倍率は3.3倍であります。

試験については、教諭等と同じ日程で行います。

7月18、19日の両日に筆記試験及び実技試験、8月1日または2日に面接試験を行うこととしております。

以上で説明を終わります。

【質疑】

(眞鍋委員)

「理療科を含め」と説明がありましたが、その数を教えていただけないでしょうか。

(宮崎教職員課長)

教科ごとの数は、出しておりません。

(金田委員長)

採用の時は教科毎に出しているが、今は出していないということ。

(眞鍋委員)

分かりました。

(橋正委員)

一所懸命、募集人数を集めるのは大変だったと思います。お疲れさまでした。

去年よりプラス34人、倍率で0.2%とプラスになっていることに、苦心というか、努力の跡が伺えます。

一にも二にも教育は、教員に因るものですから、是非また、採用試験もしっかりと人物を見極めて、良い先生を採用していただければと、この数字を見て期待しております。

報告第2号 平成27年3月石川県公立高等学校卒業者の進路状況について

(小浦学校指導課長説明)

資料6頁をご覧ください。

初めに、全日制課程についてですが、卒業者は7,618名で、前年より160名増加となっています。

そのうち、大学・短大進学者は4,051名で、前年より87名増加ですが、卒業者全体に対する割合は53.2%と、前年と同じです。

大学進学者については、前年に比べ進学率が0.5ポイントの増加となりました。

そのうち、国公立大学への進学率は、卒業者全体の18.8%となっており、前年度から0.7ポイント増加いたしました。

これは、金沢大学の合格者の増加が影響しているものと捉えています。

なお、参考までに申し上げますと、平成17年3月、10年前であります、国公立大学への進学率は15.7ポイントでありました。

短大進学者については、今年度は前年度に比べ進学率は0.4ポイントの減少、また、専修学校・各種学校等への入学者は1,558名、前年より93名増となっております。

就職については、1,821名と、前年より29名の減少、割合は23.9ポイントと0.9ポイント減少しました。

次に、定時制課程についてですが、卒業者は137名で、前年より5名減となっており、大学進学者については、12名で、前年より4名増、また、短大進学者は、前年度とほぼ同数、専修学校等への入学者も同数、就職者は15名減となっております。

通信制課程の卒業者については110名で、前年より13名減となっておりますが、就職者数は前年より6名多い、23名でありました。

以上まとめますと、進学については、全日制課程においては、国公立大学志向が続き、定時制・通信制では、四年制大学・短大から専門学校まで多様なニーズを持つ生徒がおり、各学校では生徒、保護者の希望に応えるべく、学習指導や進学指導に力を尽くしているところであります。

さらに、就職については、公立高校の3月末の就職内定率が99.9%と、4年連続で99%台の結果となりました。

これは、生徒や学校教職員の頑張りはもちろん、多くの関係と連携した支援策の成果と考えております。

今後は、生徒が主体的に進路を選択し、早期離職が少しでも減るように、職業観、勤労観を育成などキャリア教育の充実を図ったり、関連機関と連携したりするなどの支援に努めてまいります。

以上で説明を終わります。

【質疑】

(横山委員)

定時制と通信制課程に関してですが、「その他」の部分が3~4割を占めていると言うところが気になるのですが、資料の一番下の※印のところに「その他」に関しては、「家事手伝い、及び進路が未定」とあるのですが、ある程度学校の方で、未定の方へのサポートだったりとかが出来るとかということと、例えば、その後も通信制課程や定時制課程にとどまると言うか、勉強し続ける見たいな、何かそう言うことってあるのでしょうか。

(小浦学校指導課長)

「その他」の部分、一時的な仕事に就いた者の割合が半数近くを占めています。

一時的な仕事に就くことが、進路が未定であるかどうか難しい話だが、完全に進路が分からない生徒は少ないと思っています。

学校としては、絶えず生徒と連絡を取り、最後まで面倒を見るように頑張ってますけれど、それでも決まらない生徒がおり、やはり、学校にいる間から社会にもっと繋がりを持った指導、つまり、キャリア教育がさらに求められていると考えています。

(横山委員)

全日制、定時制、通信制の入学者に対する卒業者の割合、もし、数字をお持ちなら教えてくださいませんか。

(小浦学校指導課長)

今、その数字は持ち合わせていませんが、学校を見ておりますと、入学者がそのまま全員卒業していくと言うことは、少ないのではないかと思います。

(眞鍋委員)

高校に入っても、その後、中途退学してしまうような生徒の中には、家庭の貧困の問題があるように、昨今、報道されていたりしますので、今、横山委員が言われたような数字のフォローとか、退学する生徒の原因のフォローなんかが必要なことかなあとと思います。

(木下教育長)

留年もいたりしますので、入学者に占める卒業者の割合というのは、統計的には正確に出せないと思います。ですから、退学者が何名いたかという話ですね。

(小浦学校指導課長)

高校生の中途退学について割合で言いますと、全日制で1%前後、全国平均より少し少な目かと思っています。

中途退学の主な理由は2つありまして、1つは学校生活不適用、もう1つは進路変更、この2つが大きな理由に挙げられています。

結局、ある学校を退学しても次の学校に移ると言うこともありますので、全部が全部、学校から離れるということはないのかと思いますけど、いわゆる精神的に参ってしまう子とかも含めているので、学校としては、そういう子に対しても、最後まで手厚い指導を行っていると思っています。

(横山委員)

定時制、通信制では、何%くらいですか。

(小浦学校指導課長)

定時制、通信制では、10%を超えますね。

(木下教育長)

経済的理由は、きっと減っていると思いますね。

(横山委員)

眞鍋委員の言われたような、貧困という理由まではクリアに見えないのですね。

(木下教育長)

それは理由としてあれば上がるのですが、今、授業料が実質無償化、高所得者以外は無償化されていますので、そう言った意味で、過去ほど理由として出てきていないと思っています。

(橋正委員)

全日制の就職者が23.9%と4人に1人弱と言いますか、ちょっと切れる位ですけど、先日のニュースで離職のことが話題になっていましたが、就職した後の様子というのは、こちらの方で分かりますか。

(小浦学校指導課長)

先日行われました、高等学校就職問題連絡協議会で県内の新規就職者の離職状況の資料が石川県労働局職業安定部の方から出ていまして、それを見ますと、平成25年3月卒業生で言いますと、1年後の離職率は、男女併せて2割弱ぐらいになります。

あと、例えば、3年後の離職率、平成23年3月卒業生で見ると、離職率は3割を超えているということで、3年経つと3割以上の若者が離職しているというデータが出ております。

そう言うこともで、キャリア教育をしっかりとやるということが我々の課題であり、いろいろと頑張っているわけでありまして。

(橋正委員)

この子らも社会全体にとっては、大事な財産なんですけどね。2割弱、3割超、離職後、学校が追いかけると言うのは、その子を追いかけるというのは難しいですね。就職してしまえばね。

(小浦学校指導課長)

卒業生と連絡を取って追跡している学校もあるので、我々としても、是非、学校に追跡をしていただいて、卒業した後も、がんばれという指導を考えております。

(金田委員長)

ミスマッチは、当然、どれだけかは出てくるかと思いますが、橋正委員が言われたように大事な公民、納税者として学校を出て行くわけですから、その重要性を学校全体が捉えて、ミスマッチが少しでも減るようにお願いしたいと思います。

よく就職先と連携を取りながら、情報を共有していただきたいと思います。

(金田委員長)

以降の審議については、非公開となるため、傍聴人の退席を促す。

議案第22号 平成28～31年使用中学校用教科書石川県教科用図書選定資料について
(非公開)

小浦学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第22号 平成28年度用一般図書選定資料について (非公開)

小浦学校指導課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

議案第24号 石川県立図書館選定資料について (非公開)

篠原生涯学習課長が説明し、採決の結果、全会一致で原案のとおり可決された。

・閉会宣言

金田委員長が、閉会を告げる。